令和6年度　城 東 中 学 校 総 括 評 価 表

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	
学習指導 対話による合意形成ができる生徒の育成を目指し、語彙力の向上を図る。	①主体的・対話的で深く学び合う生徒の育成を目指した授業改善を図る。 ②学習習慣を確立し、自らの課題に主体的に取り組む生徒の育成を図る。 ③語彙力や話し合いのスキル向上をさせ、対話による合意形成のできる生徒の育成を図る。	評価指標 ①各教科の授業内容が概ね理解できている生徒が80%以上である（アンケート調査）。 ②１日平均１時間以上家庭学習に取り組む生徒が75%以上である。また、学習規律を守る生徒が95%以上である。 ③ホワイトボードミーティング等の手法を用い、意見交換の場を積極的に設け、生徒が考えをまとめたり、思いを表現したりできるようにする。また、単元の振り返りやレポートの作成など、記述したり表現したりする活動を積極的に取り入れる。 活動計画 ①〈城東中学校学力向上実行プラン〉を策定し、各教の到達目標についての評価を実施する。 ②「学力向上のための生活改善１０か条」「各教科の学び方」などの配布を通して、学力生活習慣の関係、効果的な学習方法、及び学習規律を指導する。 ③生徒が自己の思いや考えをまとめたり表現したりする活動を積極的に取り入れる。	評価指標の達成度 ①授業の内容が理解できている生徒が７８％と目標値をやや下回った。教師は指導方法の研究や工夫を通して「わかる授業・自ら学びたくなる授業」づくりを続けているが、今後も改善の余地がある。 ②１日平均１時間以上家庭学習に取り組む生徒が７２％、学習規律を守る生徒は９２％と、両項目とも目標値をやや下回った。夢や目標を持ち実現に向け努力する生徒が多くいる一方で、学習規律を守り、自主的に学習に取り組むことの大切さを知りながら、実行に移せていない生徒がいるのも現状である。学ぶことの意味を今一度考えさせ、自らの未来を切り拓くための学力を身につけさせていきたい。 ③「話し合いの場において、相手に分かりやすく伝えるための工夫をした」と答えた生徒は７９％で、前回調査時よりも意識の向上が見られた。一方、「ホワイトボードミーティング等の手法を用いて話し合いの場を設けた」と答えた教員は２７％と少なく、話し合い活動が積極的に取り入れられていない現状が浮き彫りとなった。 評価指標の達成度 ①城東中学校学力向上実行プランを軸に、各教科で指導と評価の在り方や授業改善に向けての研究・協議を行い、生徒の学力や学習意欲の向上に努めた。 ②「学力を伸ばしたい人のための生活改善１０か条」を改訂し、年度初めに「各教科の学び方」とともに生徒及び保護者に配付したり、夏休み等の個人面談時にそれらを活用したりして家庭との連携を図った。また、日々の授業や学年集会等で、細やかな振り返りや学習方法についての指導を継続的に行い、学習意欲や意識の向上・改善に努めた。学習規律についても全学年で徹底できるよう取り組んだ。 ③話し合いの場の設定は思うようにできなかったものの、書くことを中心に全教員で語彙力向上をテーマに授業改善に取り組んだ結果、「自分の思いや考えを的確に表現するために、ふさわしい言葉を選ぶことを意識している」と答えた生徒が７８％と前回調査を上回った。	総合評定 （評定） B （所見） ・「わかる授業・学びたくなる授業」をめざし、今後も教員間での情報交換や最新情報の入手に努めたい。また、今後も学習規律の徹底を図り、落ち着いた学習環境の構築に努める。 ・合意形成のできる生徒の育成をめざし、今後も生徒の語彙力向上に向けた実践ができるよう研究や工夫を重ねていきたい。また、思いや考えを表現したり、話し合いを通して他者理解を深めたりする場を設定していきたい。 ・「何を学ぶのか」「何を身につけるのか」が明確となる授業の提供に努めたい。そのためにも基本に立ち返り、「めあて」や「振り返り」をきちんと示した授業を実施していきたい。 ・生徒に学習計画をきちんと立てさせるとともに、必ず振り返りをさせ、自己の学びを調整させていきたい。また、学習活動に対するフィードバックを明確かつ迅速に行い、生徒の自己改善につなげられるようにしたい。	・「前向きにやっているようだが学力が低下しているのではないか。」「学年によって学力差がある。」という話をある保護者から聞いた。 ・学区制が撤廃されることが報じられ、保護者も心配しているのではないか。 ・城東中の生徒は、落ち着いて授業を受けられていると思う。 ・学校評価アンケートから、「自分の考えや思いを的確に伝えられるよう工夫している」生徒の割合が増えている。語彙力を高めるための取組の成果が出ているのではないか。 ・コロナ禍で、理科の実験等ができなくなっていたと聞いたが、楽しく学べる大事な学習なので、積極的にやってほしい。 ・子どもの多様化が進んでいる。わかりやすい授業、力の付く指導をお願いしたい。 ・家庭学習については、SNSから切り離すことが大事。 ・塾には何人ぐらい行っているのか。そういうデータも見たい。 ・昔は授業でよくノートをとっていた。最近は、ワークシートを準備してくれる教員が増えたことやタブレットの活用がふえたため、ノートに書く学習は、減っているように思う。	・「わかる授業・学びたくなる授業」をめざし、今後も教員間での情報交換や最新情報の入手に努めたい。また、今後も学習規律の徹底を図り、落ち着いた学習環境の構築に努める。 ・合意形成のできる生徒の育成をめざし、今後も生徒の語彙力向上に向けた実践ができるよう研究や工夫を重ねていきたい。また、思いや考えを表現したり、話し合いを通して他者理解を深めたりする場を設定していきたい。 ・生徒に「何を学ぶのか」「何を身につけるのか」を意識して授業に取り組んでもらえるよう、基本に立ち返り、「めあて」や「振り返り」をきちんと示した授業を実施していきたい。 ・生徒に学習計画をきちんと立てさせるとともに、必ず振り返りをさせ、自己の学びを調整させていきたい。また、学習活動に対するフィードバックを明確かつ迅速に行い、生徒の自己改善につなげられるようにしたい。
道徳教育 自己を見つめ、心豊かに生きる子どもを育てる。	生徒に充実感をもたらすような生き生きとした学習を進めるため、教科書を中心に適切な資料を選定し、効果的に活用する。	評価指標 授業の内容について深く考えることが出来たと感じる生徒が85%以上である。（アンケート調査） 活動計画 ①授業改善と評価のための校内研修を充実させる。 ②教材開発のための研修会を各学年で行う。	評価指標の達成度 授業の内容について、自分のことのように深く感じる生徒が、１年生では８６％、２年生では９４％、３年生では９５％であった。目標の８５％を達成することができた。 活動計画の実施状況 ①各学年で道徳の研究時間を行った。先生方が道徳の授業を大切にし、各学年・学級で生徒たちの実態に合った教材を使って、生徒と共に道徳的価値や心情について深く考えることができた。 ②生徒が自分の考えを表現しつつ、自分とは異なる考えがあることを知り、おたがいを尊重し合えるよう、学年の教員で教材研究を行った。	総合評定 B （所見） 生徒たちは授業を通して、自分の考えや思いを発表し、また自分とは異なる考えがあることを知り、お互いを尊重できるようになってきた。授業で学んだことを、日々の生活に生かしてほしい。	・道徳と人権の違いが難しい。 ・道徳が教科になって、教科書もでき、学習する内容が増えている。 ・道徳心が全くない人に人権を語ることはできないし、人権を守れない人に道徳心は育っていない。 ・SNSでの誹謗中傷などを見ていると、どの教科においても、道徳的価値と人権について中心に据えて進めていかなければならない。	・学校教育全体を通して、道徳心をもち、自分の命や人権も、他人の命や人権も大切にできる生徒の育成が肝要である。 ・全教職員が、授業はもちろん学活や清掃活動、休み時間など生徒たちの様子を観察し、生徒たちがお互いに思いやりや気遣いの気持ちをもって学校生活を送ることができるよう支援する。

「評定」の基準　A：十分達成できた。　B：おおむね達成できた　C：達成できなかった

令和6年度　城 東 中 学 校 総 括 評 価 表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
人権教育 人権の大切さを学び、人権尊重の意識や態度を身につけ、日常生活の中で人権尊重を当たり前のこととして行動しようとする人権文化の創造を目指す人間を育てる。	①人権教育を教育の中核に位置付け学校教育全般にわたって、あらゆる場、あらゆる機会に民主的な人間関係の確立に努める実践を積極的に行う。 ②地域社会の実態、生徒の実情に立って人権教育を進める。 ③教師と生徒、及び生徒相互の人間的な関わりを通して相互理解と信頼関係を深め望ましい集団活動や楽しい仲間づくりをする学級経営に努力する。 ④学校ぐるみの指導体制を確立し、子どもの可能性を伸ばす。わかる授業の創造をめざして、個人に応じたきめ細かな指導の徹底を図り、学級、全校、課外などあらゆる場面で民主的集団づくりをめざす。	評価指標 ①人権作文・「心に虹をかけた魔法の言葉」の提出する生徒が100%である。 ②校内研修会や学年研修会への参加が全教職員である。 ③学年毎に授業を行うことにより、人権に対する鋭い感性が磨ける。（アンケート調査） 活動計画 ①入学式後のPTA結成式の機会に人権教育への取り組み方について説明する。 ②前期・後期人権教育強化啓発月間（６月・１１月）を設ける。 ③校内研修会や学年研修会などの機会を通じて、全教職員で研鑽に努める。 ④校内研究授業を行う。 ⑤各種研修会に参加したとき、研修結果を報告する。 ⑥地域との連携を強化して生徒に対する共通理解を持ち、積極的な行事への参加を通じてよりいっそう信頼関係を深めるように努める。 ⑦学年毎に研究授業を行い、研究を深める。 ⑧外部講師を招いての講演会を行い、研鑽に努める。	評価指標の達成度 ①人権作文・「心に虹をかけた魔法の言葉」の提出率は９０％程度だった。 ②校内研究授業やメンター研修、校内研修を実施し、人権問題学習について学びを深めることができた。 ③各学年ともに人権学習に取り組み、学校評価アンケートからも昨年度と同等の回答を得ることができた。 活動計画の実施状況 ①人権劇の取組についてや人権学習の取組を話した。また、SNSによる誹謗中傷の問題についても話し、使い方の注意喚起の理解を求めることができた。 ②６月は各クラスで人権学習を行い、人権作文や「心に虹をかけた魔法の言葉」を書くことができた。１１月にはオープンスクールにおいて人権学習に取り組むことができた。 ③講師を招き、部落差別問題についてのお話を聞き、学びを深めることができた。 ④各学年で研究授業を行うことができた。 ⑤ストークの回覧板を利用し、研修の内容を報告したが、一部報告できていないところもあった。 ⑥オープンスクールにおいて、人権学習を保護者の方に参観してもらうことができた。 ⑦各学年の発達段階に応じて、授業のねらいを明確にし、指導計画を練るなど、研究授業に向けて先生方が互いに協力し、人権学習に取り組むことができた。 ⑧地域の方や人権教育指導員を招いて、研修会や講演会を行うことができた。	総合評定 （評定） B （所見） 講師を招いての研修や講演会を行うことができた。人権動画の制作では、呼びかけが遅くなり、有志の参加が少なかったため、来年度以降は、計画的に取り組み、有意義な活動にしていきたい。また、徳島県において、徳島県こども未来応援条例が制定されたので、教職員、生徒、保護者に啓発していけるようにしたい。	・オープンスクールでの人権教育は、少し難しかった。多様性等の子どもにとって身近な問題も取り上げてほしい。 ・人権教育については、小中学校で、基本的な身近な問題について学んでおいてほしい。 ・同和問題は人がつくり出した世界に恥ずべき差別。その間違いに気づけるようにしないといけない。 ・外国人の問題とかも取り上げてほしい。 ・無知であることが一番いけないこと。正しい知識を身につけることが大事で、避けては通れない問題もある。 ・差別されない、差別しない人間になってほしいと願っている。	・同和問題学習を中心として、様々な人権課題について、生徒の発達段階や学年の実態に合わせて、いじめ問題やジェンダー問題など身近な人権課題にも取り組んでいく。 ・正しい知識を身につけ、正しい判断・行動ができる生徒の育成のために、教職員の研修に取り組んでいく。 ・人権学習の際には、事前にしっかりと教材研究に努め、入念に準備をする。また、必要に応じて新聞記事などを活用し、生徒が身近な問題として捉え、自分事として考えられるように努めたい。
生徒指導 生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立をめざす。	①生徒の生活実態を把握する。 ②あいさつの習慣を定着させる。 （特に登校時）	評価指標 ①調査の結果から、生徒の実態を把握し、様々な問題の解決を図る。（アンケート調査） ②家族や地域の方々へもあいさつができる。（アンケート調査） 活動計画 ①学期に１回程度、生活アンケート調査を実施する。 ②教師や生徒会活動によるあいさつ運動を実施する。	評価指標の達成度 ①「あいさつができている」という生徒の意見は９０パーセント近くあったが、保護者の意見は「できていない」が２０パーセントを超えていた。 ②仲間や先生に対しあいさつはできていると思われるが、保護者や地域の方へのあいさつは十分でないと考えられる。 活動計画の実施状況 ①各学期末にアンケートを実施し、問題点や気になることは、生徒と担任が面談し解決へ導くことができた。 ②冬の寒い時期になると、挨拶運動に参加する人数が減り、登校生徒のあいさつに元気がなくなる。少しでも人数が集まり、朝から元気に活動できるようにしたい。	総合評定 （評定） B （所見） 問題が発生する前に、気になる生徒の情報交換をする場にしたかったが、問題行動がおこったあとの情報交換になることが多かった。	・生徒はあいさつはよくしてくれている。最近は、生徒の方からあいさつをしてくれることが増えた。 ・校内ではよくあいさつをしてくれるが、校外ではあまりしてくれない。 ・SNSでの個人攻撃や性的なもののトラブルが増えている。保護者の管理が十分でなく、子どものスマホを確認しないといけない。 ・スマホの使い方については、外部の方から事例を挙げながら保護者にも話をしてほしい。 ・他校生とイオンでの喫煙があるということを聞き、PTAでイオンへの巡視もしていこうと思っている。	学校内では、１人でも挨拶ができるが校外にでると挨拶ができなくなる。部活動の練習試合や大会、いろいろな機会に指導していきたい。 ・SNSからトラブルに発展する事案が多くなっているため、スマートフォンの使い方などの指導や家庭への啓発の機会を増やしていきたい。

「評定」の基準　Ａ：十分達成できた。　Ｂ：おおむね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

令和6年度　城 東 中 学 校 総 括 評 価 表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
特別支援教育 特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、よりきめ細かな対応に努める。	特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、全教職員が共通理解を図って対応する。	評価指標 ①本校の支援を必要とする生徒について、「教職員が理解に努めている」が90％になる。（アンケート調査） ②特別な支援を必要とする生徒の80％以上に対応できる。（実態調査） 活動計画 ①対象生徒の実態について共通理解を図り、学年会や校内委員会で個々の対応について考える。 ②生徒、保護者の理解を得て、教職員が連携を図り、適切な対応をとる。	評価指標の達成度 ①「特別な支援を必要とする生徒が必要とする支援内容について、 理解を深めている」が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて９４％であった。 ②「特別な支援を必要とする生徒に、 必要な支援が８０％以上できている」が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて７９％であった。 活動計画の実施状況 ①学年会等で特別な支援が必要な生徒と具体的な支援方法をまとめ、共通理解を図った。 ②生徒の特性をより深く理解し具体的な支援につなげるため、必要に応じて専門機関の指導・助言をいただきながら取り組んだ。	総合評定 （評定） B （所見） どのような支援が有効であるか、専門機関と連携したり、助言をもらったりしながら学校全体で取り組んだ。	・校内教育支援センターである黎明学級について、登録者は増えている。教室に戻れた生徒もいる。 ・教職員が１人は黎明学級に付いてくれている。教職員数からいうと厳しいところもあるだろう。 ・黎明学級を見てくれる方は、子どもが気軽に話せる人がいいという話を聞いた。	・個々の教育ニーズに応じた支援を目指して、可能な範囲で必要な教材教具など物や人の配置などの支援体制を整えていく。 ・うまくいっている支援方法を共有したり、専門機関から助言をもらったりしながら教員のスキルアップに努める。引き続き、特別な支援が必要な生徒の把握に努め、学校全体で支援していく。
安全教育 登下校時の安全意識の向上をめざす。	自転車通学生のヘルメットの着用を徹底する。	評価指標 自転車通学生のヘルメット着用率が95％以上になる。（アンケート調査） 活動計画 指導計画に基づき、学校周辺の交通指導を徹底する。	評価指標の達成度 アンケート結果より、ヘルメットを着用できたと回答している生徒は９１％で、目標を達成できなかった。 活動計画の実施状況 立哨当番時や一斉下校時は、指導重点箇所3カ所で指導の徹底を呼びかけた。また、一斉下校時には、時間差下校をすることで生徒の分散を図った。	総合評定 （評定） B （所見） 生徒の安全に対する意識の向上や自転車事故の危険性について、周知していく必要がある。	・この前、ヘルメットのあごひもができていない生徒を見かけた。 ・一斉下校時に学年での時間差下校を実施している。 ・自転車でぶつかった時、黙ってスッとそのまま行ってしまう生徒がいる。	ほとんどの生徒が日頃から交通ルールを守り、自転車を利用している。その反面、自転車事故の報告も受けている。年度初めや学期始めなどで生徒全体に自転車乗車時に気をつけること、交通ルールやマナーを守ることが自分を守ることだと、しっかりと指導していきたい。
環境教育 ゴミの分別・再資源化の意識の高揚と節電・節水に努める	①ゴミの分別を徹底する。 ②紙の再資源化を徹底する。 ③教室その他の場所における節電・節水を徹底する。	評価指標 ①とくしまＧＸスクールの「目指す生徒の姿」に向けた行動をとる。（実態調査） ②リサイクルボックスを活用し、教室からでるゴミを減らそうと努力している生徒80％以上を目指す。（アンケート調査） ③節電・節水に取り組んでいる生徒80％以上を目指す。（アンケート調査） 活動計画 ①とくしまＧＸスクールの目的を理解し、環境を守る意識の高揚を図る。 ②リサイクルボックスの活用を徹底する。 ③学級活動や委員会で取り組み、周囲への啓発をすすめる。	評価指標の達成度 ①毎月のクリーンアップ大作戦や花と緑を育てる運動等により、とくしまＧＸスクールに認定された。 ②資源ゴミのリサイクルに取り組んでいる生徒が８３％であった。 ③節電に取り組んでいる生徒が７８％、節水に取り組んでいる生徒が９０％であった。 活動計画の実施状況 ①毎月のクリーンアップ大作戦には、生徒会を中心に、多くの生徒が参加し環境美化の意識高揚につながった。 ②各教室にリサイクルボックスを設置し、余った用紙を入れる生徒の様子がみられた。 ③夏前に節電を呼びかけたが、目標達成には到達しなかった。今後も継続して呼びかけるよう促していく。	総合評定 （評定） B （所見） 前年と比較し、資源リサイクルと節電に取り組む生徒が１ポイント低下、節水に取り組む生徒が１ポイント増加した。生徒会を中心に今後も意識した取り組みを継続していく。	・保護者の意見の中に、「子どもが手紙を渡さない」とかある。紙のリサイクル等の活動をしているのであれば、保護者への手紙をマチコミで配付するようにしてはどうか。 ・月１回のクリーンアップ大作戦は、とてもいい取組と思うが、この活動を地域に協力してもらってはどうか。そうすれば、子どもと地域の方との交流も深まり、あいさつもできるようになっていくのではないか。地域との活動がカーブミラー磨きの年１回だけでは少ない。 ・保護者にも声をかければ奉仕活動に参加してくれるのではないか。	・とくしまＧＸスクールに認定され、今後もＳＤＧｓの取り組みの充実を図り、生徒会の自主的な参加に結びつける。 ・リサイクルに対する意識を向上させるために、資源の再利用を呼びかける掲示物や生徒会・担任からの声かけ、リサイクルボックス設置場所の確認を定期的に行い、生徒のリサイクルへの意識向上を目指す。 ・地域に貢献できる活動により積極的に取り組むよう努めたい。 ・トイレ、教室、廊下等の節電や水道の節水を行うよう呼びかけ、掲示物などの増設や啓発に努める。

「評定」の基準　Ａ：十分達成できた。　Ｂ：おおむね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

令和6年度　城 東 中 学 校 総 括 評 価 表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
キャリア教育 生徒のキャリア発達を支援する観点に立って、望ましい勤労観や職業観を身につけるために必要な知識や技能を育てることをめざす。	進路や職業に対する情報収集や学習を通して、望ましい勤労観・職業観を身につけ、将来の進路への夢や希望を持たせる。	評価指標 １年；将来の進路への夢や希望を持つことができる生徒が70%以上である。 ２・３年；将来の進路への夢や希望を持ち、その実現に向けて努力する生徒が80%以上である。（アンケート調査） 活動計画 ①進路や職業等に関するさまざまな情報を本やインターネット等を利用して収集・探索し、情報を選択・活用して、自己の進路や生き方を考える。 ②進路適性検査を実施し、自分の適性や自己の果たすべき役割についての認識を深めるとともに、DVDや講師の話等を通して、社会人・職業人の生き方を学び、職業体験学習での実践力を身につける。 ③キャリアパスポートを活用し、中学校３年間での計画的なキャリア教育を実施する。	評価指標の達成度 夢や希望をもち、その実現に向けて努力する生徒が、１年は65%、２年は86%、３年は93%という結果になった。２、３年生は目標数値に達したが、１年生は前年度より9%減少し、達成に至らなかった。 活動計画の実施状況 ①2・３年生においては高校調べや高校説明会等を通して、自己の進路や夢について深く考えた。 ②進路適性検査は行わなかったが、職場見学を通して、実際に自分で見聞きしながら企業理解を深め、働く意義や価値を学んだ。また、身近な大人へのインタビューを通して、さまざまな職業について知識を深め、社会の中で生きる上での自己の適性や果たすべき役割について考えた。 ③キャリアパスポート等を記入していく課程で、自分自身について深く考える機会を持ち、より良い自己実現を達成するために、課題を発見し、具体的にどのような努力が必要なのかを考えた。	総合評定 （評定） B （所見） 3年生では93%と、非常に高い達成率となった。昨年度の同集団(2年時)の数値に比べて26%の上昇である。また、2年生においても、同集団(1年時)と比べると12%上昇している。学年が上がるにつれてより具体的なキャリア教育を進めることで上昇していくと推測される。来年度は体験学習を再開するなど、将来について考える機会を増やし、キャリアの発達を支援する教育課程の実施に取り組んでいきたい。	・職場体験を実施するには、200人の受け入れ先が必要になり、難しい。 ・子どもが職場体験をすることによって、働くことの大変さや責任感を持ってやるということがわかる。また、大人と学生の違いに気づく。 ・コロナが5類になっても、コロナ前のように、事業所が受け入れてくれないように思う。 ・保育実習はしてほしい。実習をしているときは、中学生が全然違う表情をする。 ・受け入れ側は、大変だと聞いたことがある。子どもがやった作業を、子どもが帰った後にやり直さなければならないとか、子どもの失敗が多いとか。２日も受け入れるのは、ちょっとしんどいと思う。	・昨年度に引き続き、１年時から進路や職業に対する情報収集を行ったり、２年時から高校について知る機会を設けたりするなど、将来の進路への夢や希望を持たせるための方策を早い段階で充実させていく。 ・職場体験学習を再開し、望ましい勤労観・職業観を育てる。また職業や高校に関する調べ学習と成果の発表・共有を通して、将来の進路への関心を高めたり、見通しをもたせたりする。
食育 食育の充実を図り、バランスのとれた食生活をめざす。	朝食をしっかり食べて登校するよう生徒・保護者に呼びかける。	評価指標 朝食を毎日食べてきている生徒が80%以上である。（アンケート調査） 活動計画 ①給食時間・学級活動・集会・家庭科の授業等に おいて、「毎日のバランスのとれた朝食が大切であること」を指導する。 ②給食だより・食育タイム・パンフレット・給食試食会等を通して、保護者への啓発を推進する。	評価指標の達成度 生徒アンケートでは、今年度、毎朝朝食を食べていると答えた生徒が目標の80%を達成することができた。 活動計画の実施状況 ①家庭科の授業で、家庭科教諭と栄養教諭のTTの指導による食育の授業を行った。１年生は朝食について、２年生は間食の取り方について指導をした。 ②食育だよりや給食だよりなどで、朝食摂取の重要性を保護者へ呼びかけた。	総合評定 （評定） B （所見） 「朝食を食べることは大切である」と理解している生徒は多いように感じるが、ごはんやパンの主食のみや、ジュースのみを摂取してくる生徒がいる。将来も健康であるためにはどうすればよいか生徒自身が考え、実践することができるような食育をしていきたい。	・８０%以上の生徒が朝食を食べてきているのはすごいことだと思う。ご家族の協力や子ども自身も意識があることがわかる。 ・朝食で何を食べているかも大事。 ・給食のない長期休暇の時に、ご飯をちゃんと食べられているのか、心配である。生活リズムが不規則になって、きちんと食べられていない子どもがいるのではないか。	・家庭科の授業で朝食摂取の重要性や望ましい朝食の内容について、継続的な指導をしていきたい。また、ホームページや食育だより等を活用して、保護者への啓発も積極的に行っていきたい。 ・今年度の夏休みに養護教諭より「部活動チェックシート」が配布された。そのチェック項目に「朝食を食べている」の欄があり、チェックがついているものの、内容がジュースのみという生徒がおり、体調を崩していた。夏場は特に熱中症の危険があるため、部活動生を対象に、栄養教諭や養護教諭と連携をして食事指導を行っていきたい。

「評定」の基準　A：十分達成できた。　B：おおむね達成できた　　C：達成できなかった